



# スライド制導入!!

## 2年連続学費値上げ

六月五日の学費説明会に於て理事長は平成三年度入学生から入る値上げ、及びスライド制導入を報告した。

この値上げはスライド制の導入というところで、これまでの単なる値上げとは異なり、年々加算されてしまうことがらも、今後大きな影響を与えるものと考えられている。この事について理事会は、すでに決定されていること、また、学生の意見によつて決定が覆されるようなことはあり得ないことを主張し、場内は騒然となった。

去る六月五日の午後六時より八時半にかけて、一一講義室において学費説明会が行われた。参加者は永井国太郎理事長をはじめ、常務理事、学長、教職員、執行委員長、自治委員会議長、一般学生などである。

今回の説明会で、来年度入学生からのスライド制導入及び、平成三年度について入学金を四万千円、授業料を五万二千円、施設費を六千円(詳しくは下表を参照)それぞれ増額することが明らかになった。このスライド制という

のは人事院による国家公務員の給与に関する勧告に依つて示された対前年度アップ率分を目安に授業料をアップするというものである。

今年度三〇万円の学費値上げを行ったにも関わらず、更に来年度も値上げするに到つた理由について理事長は、大学の経営赤字の削減と日本の経済情勢の変動に伴う物価指数の増加によるものであると説明した。

理事長から参加者に意見を求めたところ、「学生側から学費を値上げしないので学校経営を切り切る方法はなかったのか。一などの意見が出されたが、理事長は「施設維持などに使う金を切りつめる手段よりもこちらのほうが将来性がある」と答えた。そして「今回の学費値上げの件は、学内における最高権力である理事会で議決されたことであるから、それを学生側の意見により覆すことは決して有り得ない。私はここに提案しに来たのではなく、報告しに来たのだ。」と強く主張した。

これに対し、自治委員会議長は「一言もなく学内協議会を廃止するのは困る。」と申し立てたが、理事長は「学生の意見で議決は左右されないもので学内協議会は無意味ではない」と答へ、学費値上げについて「と答え、学費値上げに決まるといふ姿勢を貫いた。」(関連記事は二面に)

### 平成三年度学費改訂内訳

(単位：万円)

学部	現行	改訂	増額	算出
授業料	100	105.2	5.2	100*1.0516
施設費	20.6	21.2	0.6	20.6*1.030
計	120.6	126.4	5.8	



## 学内協議会は無意味だった

学生の意見を取り入れる場として今まで行われてきた学内協議会は、実のところ理事会の決定事項を扱っており全く意味の無い建前だけのものであった事が先日学費説明会で明らかになった。

六月五日の学費説明会に於て、学費の値上げは既に決定された事項であり、これはその報告であるとの旨が伝えられた。(一面参照)前理事長時代に、学生にとって重要な決定は学内協議会により理事会、教職員、学生の三者により協議を行うという約束を得ていたので、学内協議会を行う前に決定を行つたことについて学生側が非難すると、それに對し理事長は、前理事長時代に行われていた学内協議会は理事会で既に決定しているものを扱っており協議会に於ける学生の意見によつて決定が覆されることは決してなかったとの発言をした。これ

により以前の理事会の偽善的な対学生政策が明るみに出された。意見が反映されるものと信じていた我々は中身の無い協議に貴重な時間を大量に割いていたことになる。この件について執行委員長の山口和彦と自治委員会議長の見玉実章からコメントを頂いているので、まずは執行委員長、次いで自治委員会議長のコメントを記す。

「先に行われた学費改訂説明会を聞いて、私個人、はつきり言っておきまして、いままで行ってきた学内協議会が一体何だったのか、何のために行っていたのか、まったくわからなくなりました。というのも、私達は前理事長の時の学内協議会が、学生、教職員、理事会の三者が平等な立場で検討する場であり、それをふまえた上で理事会が最終決定を下すという形をとっているのだと思ってい

たが、先の説明会で明らかにしたように去年の学内協議会では、実は既に理事会で決定した事を長々と討論していただけたのであります。しかし、すでに決定してしまつた理事会決議を覆すことはできない。理事会が大学の最高議決機関なのだ。しかし、これで理事会へ学生が直接、要求することができなくなるわけではない。これから学生の意見等を理事長に伝えるシステムの設立にベストを尽くしたい。」

一経過などは本紙の記事と、執行委員長のコメントを読めばわかると思う。学生諸君が絶対に間違えてはならないことがある。新理事長が今回報告したものは決して勝手な判断ではなく、むしろ今までの理事長のやり方を踏襲したものである。

今回の学費改訂についての内容は日を改めて何らかの場を設けることとなるであろうが、既に関係諸機関に通知済であることを考へて前向きな意見交換の場としなければ、改訂を決定したから文句を言わせない。学生に無断で学費の改訂を決定したから文句を言うが、文句を言う相手は新理事長でなく旧理事長である事を肝に銘じてもらいたい。

新理事長は我々学生だけではない。新理事長と教員多数も含まれるのである。学内協議会が学生と多くの教員にその結果を基に旧理事会が決定をするとされていながら、旧体制内部では全く異なる扱いをしてきた。

今こそ、学生諸君の良識が問われる時である。感情に任せ相手を間違えた文句中傷を言うのでは解決にならない。新理事長は学生との対話に積極的である。本当の意見交換の場はこれからである。

現在に於て我々学生は意見を出す方法を失つた状態にある。(そもそもも持っていない不健康な状態を打破するために法的効力のある意見交換の場を確保することが必要である。この事に対して現理事長は前向きな姿勢を見せており今後の動きが注目されるのである。

発行所  
東京薬科大学新聞会  
責任者  
宮原 勇人